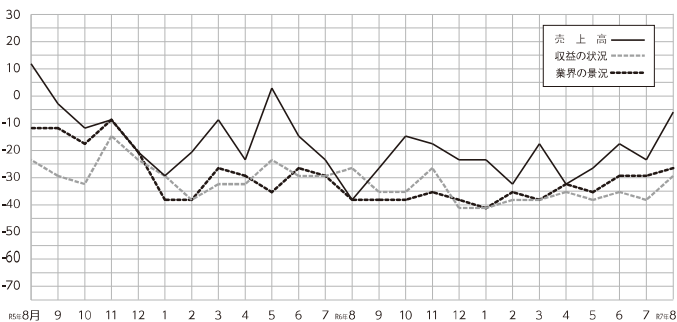




情報連絡員報告

DI(景気動向指数)



業界の状況



	旅館・ホテル	台風や地震など大きな自然災害がなく、安定して収益を確保できた。万博で宿泊客が関西圏に取られる懸念もあったが、夏休みシーズンの8月は学生団体の宿泊もあり比較的堅調に推移。秋の行楽シーズンの予約も好調で「あんぱん」効果が表れたのかもしれない。
--	--------	---

	食品団地	8月度の県内市況は、観光(よさこい・お盆・夏休み)効果が前年より好調であった。県外市況はほぼ前年並みであり、全般的には好調と言えた。収益性についてはまだまだ諸物価の上昇を補うことができていない状況下であり、厳しいところである。
	テントシート	原材料の高騰について、販売価格への転嫁ができていいると思われる。製品の値上げは落ち着いた雰囲気だが、まだまだ厳しい状況である。
	木製品素材生産	8月期の原木出材量は、減少気味となっており、丸太価格についても、引き合いはあるものの、製材品の動きがあまりよくない。樹種や大きさにより多少の違いはあるが全体的には横ばい状況。今後、秋口にかけて原木入荷量は増えてくるが、原木価格については、引き合いはあるものの、市況の動向が悪く大きな変動は見込めない状況。
	建具	仕事量は全体的に少ない。建材と金物の値上げがまだ続いている。高齢の建具職人さんが引退していつている。
	製紙(家庭紙)	紙製品全体の販売金額は前年同月比で上回ったが、販売量及び生産量は前年同月比で下回った。その中で雑紙は、先月に続き販売金額、販売量、生産量のいずれも前年同月比で上回った。一方、衛生用紙の販売金額・販売量・生産量は、前年同月比で下回った。
	製紙(手すき和紙)	不透明な国際情勢により原材料・諸経費等の高騰が続いており、物価高も続くなどまだまだ厳しく、引き続き注視が必要がある。
	生コンクリート製造	7月度の組合員の単月出荷量は、対前年比86.6%、4月からの累計出荷量も対前年比83.6%で若干増加傾向がみられるが、引き続き低調であった。単月出荷量は、中部・播磨地区は増加傾向にあるが、東部・讃岐・中央地区は減少傾向にある。
	コンクリート製品	対前年同月比140.2%と、先月から持ち直している。今後もこの傾向が続くと考えている。
	刃物製造	県内への販売は昨年を大きく下回ってしまい心配したが、県外(海外含む)への販売、小売販売が良く、総合的には昨年を上回る結果となった。9月はアメリカの関税政策により、よく使っているEMS使が、状況が落ち着くまで受付してくれなくなっているのが困っている状況である。
	機械団地	需要が伸び悩む中、原材料費等のコスト増に見合う価格転嫁を行うことなどにより、団地内の業況は横ばいの推移となっている。最低賃金が大幅に引き上げられる一方で、熟練者の高齢化や従業員確保に苦慮する事業所は多い。
	船舶製造	8月も納期の契約数が少なく、昨年より売上高は減少した。受注金額は前年同月を上回っている。
	珊瑚装飾品製造	8月度の取引額は前年同月比で151%となり、4カ月連続で前年を上回る結果となった。
	生鮮魚介卸売	R7年・R8年度より、売上高は増加した。お盆の前から、カツオが順調に入荷してくれた。黒潮大蛇行による影響が心配である。戻りカツオのシーズンである。

	電気機械器具小売	8月度は金額で前年比102%。省エネタイプエアコン前年比101.3%。ドラム式洗濯機前年比102%。4K8K大画面テレビ前年比94%。住宅リフォーム金額で前年比104%であった。
	中古自動車小売	中旬以降、来客数が増加。それに伴い展示車両の販売以外に注文件数が増えている。先月同様軽自動車・普通車ともに高年式車両の販売や注文が多いが、相場高騰・タマ不足により、仕入に苦戦している。
	商店街(高知市)	駐車場状況について、利用台数は前年の111.3%(2,770台増)、料金収入は前年の105.0%(497千円増)。第72回よさこい祭りは、例年通り8月9日(前夜祭)から12日(全国大会)までの4日間にわたり開催された。本祭の2日間(10日・11日)は悪天候下での実施となったが、人流カメラ(5台設置)による集計では、4日間合計で前年同期比17.2%増の人数が確認された。なお、前年(第71回)は、開催直前の8月8日に南海トラフ地震臨時情報が発令された影響もあり、人流がやや抑制されていた。8月のクルーズ船の入港数は11隻と、前年の7隻から大幅に増加した。入港当日は、午前中から多くの外国人観光客が商店街を訪れ、大きな賑わいを見せた。
	商店街(四万十市)	夏休み中、それもお盆休み等と重なり商店街は家族連れで賑わった。土曜夜市は小雨快行でスタートしたが、それほど降らず盛況で終了した。
	旅行業	組合クーポンは前年同月対比で大幅増(約3倍)となった。全旅クーポン合算後、前年同月対比145%。組合員が1社増加、新規入会組合員は従来の旅行業者と異なり、経営方針も多種多様である。従来の営業方針について見直しも必須であると感じている。
	IT事業	今月の売上は、大口案件の獲得もあり前年比50.4%増と大幅に伸びを示した。一方で、過去5カ年の平均値との比較では87.2%水準にとどまり、依然として好調時の実績には届いていない。とはいえ、回復基調が見え始めている点は明るい材料である。また、当組合は11月21日に設立20周年を迎える。節目の年にあたり、組合員一人一人が得意分野を持ち寄り、知見と経験を結集することで、さらなる売上拡大につなげていきたい。
	一般土木建築工事	高知県発注の工事件数が減少傾向にある。落札者にも偏りが見られる。
	電気工事	組合員の施工する電力引込線工事は、前年同月比62.1%となった。高知中央地区が前年同月比82.8%、香長地区が16.8%、安芸地区が52.9%となったことが影響している。
	一般貨物自動車運送	燃料価格もじりじりと値上げとなってきており、ドライバー不足の上に物量も伸び悩んでいるようで、組合員事業者の経営は厳しい状態が続くとみられている。
	タクシー	実働1日1車当りの前年同月対比運送収入:101.3%、回数:98.2%、実働率:51.8%。よさこいの夏も終わり秋の観光シーズンだが、観光にタクシーを利用される方はそれほど無く、忙しかった夏を惜しんでいる。なお、地域アプリ(こちタク)も少しずつ登録者数も増えている。本年4月～8月20日の間で2,400名の方に登録していただいた。多くの方の登録に期待している。

	酒類製造	出荷量は前年並み。酒造りの時期となったが、原料米の価格高騰で生産の調整もあり得る。
	製材	荷動きは鈍く、売上は当面減少傾向が続くとの声が多い。
	印刷	売上減少、操業度低下。大変厳しい結果となった。県内需要、県外需要とも振るわなかった。特に官公需の落ち込みが顕著だった。
	卸団地	8月のお盆時期は、天候の影響はあったと思われる。よさこい時期の雨は飲食関係に悪い影響があった。景気回復は感じられない。仕入商品、電気代など値上がりしているものの、販売価格に転嫁できていない。
	青果卸売	8月の取扱高は、組合員全体で前年対比78.8%となり大変厳しい状況。特に野菜の売上に悪く入荷量、単価ともに大幅ダウン。果物は落ち込み幅は少ないが、お盆商戦など販売は伸びなかった。今年1月から8月までの累計でも93.9%となり、かなり深刻な状況。
	各種小売(四万十町)	8月は各地で祭りや花火大会が開催されるなど、季節性イベントが盛んな月である。地域内のみならず、地域外のイベントに訪れた人が当町で宿泊するなど、多くの移動人口が流入する月であった。しかし地域内の商店では、お盆の時期の特需的な購買活動(里帰りし合わせた親類の新調など)は影を潜め、毎年この時期に合わせて行っている当会のポイント5倍セールも振るわずの状況であった。
	ガソリンスタンド	8月の新補助額は月末には10.5円となり政府の補助金限度額を超えている。政府からは暫定税率の廃止をする話も全く進まず暫定税率は廃止し、別に自動車走行税をとるとの話もあり、ガソリン税は下がったが他の税が上がったのでは消費者の首根に届くのではという話もある。エネ庁調べ25日現在高知県の平均ガソリン現金価格は173.7円で全国24番目となっている。
	商店街(安芸市)	例年8月に開催していた「商い甲子園」は、近年の猛暑による参加者及びお客様の熱中症リスクを配慮し、日程を10月26日(日)に変更した。
	飲食店	8月は比較的天候にも恵まれ、また集客に悪影響を及ぼすようなネガティブなイベントもなかった。天候が不順だった前年同月と比べると売上は安定しており、前年同月をやや上回った。前年度同月に比べても物価は高騰。光熱費・仕入価格・人件費等、ありとあらゆるものが上昇しているが、顧客離れによる集客の低下の懸念から業界の価格転嫁は十分ではない。
	クリーニング	物価高による節約志向、猛暑の影響が点数減少による需要の減少が続いている。クールビズや家庭洗濯ができる衣料が増えているのも一因。リネン業界は好調だが、人手不足が課題。修理・かけつぎ・和服洗い張り・仕立て・カーペット下請けなど関連の業種が極端に少なくなっている。